

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着したサービスを提供できるよう グループ内において運営理念をつくりあげている。	○ 抽象的となりがちな理念を更に現場に即したユニット独自の理念として具体化し、短期目標・中期目標を掲げ、到達目標と課題を明確化していく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	小さなことでも管理者へ報告し、改善に向けて仕事へ繋がるよう努力している。	管理者への報告などの“せ”を、よりつけることを自覚する。笑顔や優しさ、尊敬する姿勢や感情など、分かっていることでも毎日少しのことで、利用者へ不安感を与えてしまっている時、自分を見つめなおす。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌の発信や、運営推進会議、介護教室等を通じて家族や地域との連携を深めていくよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や散歩などは同じ場所を利用し、近所の方々に覚えていただくようしている。挨拶など、積極的に行っている。	一部広報誌などで中の生活を知ってもらおう努力はしているが、気軽さに欠けている面も多くある為、人の出入りがしやすく立ち寄り頂けるよう もっと入り口を広げたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市との協賛による地域行事(夏祭り)を行なっている。市のデイサービス事業へボランティア参加している。	地域美化活動への参加。隣組行事(敬老会)等への参加。GH世帯として地域隣組への参加。ホームイベント等への参加も呼び掛けて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的に介護教室を開催し、地域高齢者等に参加を促している。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画を立て、評価を重ねていく毎に、自分達のホームに対する客観性と自己評価への補強となっている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に評価についての報告や話し合いを行い、内容を議事録にて伝え、サービス向上につなげている。		会議内容についての全職員の把握が不十分である。職員全員で取り組んでいけるよう話し合う機会を設けていく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	適時、市町村と連絡・相談し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティングなどの際、話し合う機会を設けるようにしている。職員の目に付く所に掲示、意識付けを図っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などに参加し学ぶ時間を作り、虐待に関する知見を深め、心配りができるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情等の窓口を明示しており、日常的に職員や管理者に苦情等を表せる機会を設け、迅速に反映している。又、介護相談員を受け入れており、外部者へも苦情等を表せる機会を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時には必ず近況報告など報告をしている。出納帳の確認も含め、家族の協力が必ず必要なときも、電話連絡、スタッフ同士での申し送りを行っている。		職員の異動などについての報告はしていない。今後担当が変更になる場合など、報告はしていきたい。スタッフ間の申し送りの強化もしていきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	“家族会”などの立案はあるものの、現実的に形になりにくい。介護教室などの声掛けも行うが、参加していただける家族が限定されている。		意見聴取のための機会を多く作っていきたい。家族にも介助の内容を詳しく知っていただきたい為、集まる声かけを(内容を)もっと勉強していきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等において、職員の意見や提案の機会を聞き、それを反映するよう努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に合わせてその都度の話し合いは実施できている。		職員数の課題もあり、なかなか勤務調整が困難な状況が少なくない。常に家族とは連絡を取り合いたいと考えている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特に敏感になられる利用者に対しては勤務調整など行っている。		利用者へのダメージを最小限にする為、日頃から各フロアへ顔を出し会話をする配慮はしている。ダメージにならないように、職員全員が馴染みの人の顔になるように、一人一人がもっと利用者との関係を大切にすることを考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>幅広い年齢層のスタッフを採用しており、職員間の関係も比較的良形で互いに研鑽している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>当然のこととして日常から話し、業務だけでなくプライベートな面でも研鑽できるよう期待している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一年目の職員、二年目の職員など、入社した期間別に勉強会を実施している。研修など参加できるような声かけもしている。</p>		<p>他事業所との共同の勉強会やミーティング等を増やしていきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年一度、事業者交流発表会などで、他事業所との交流をはかっている。</p>		<p>全く知らない事業所等への訪問など、していきたいと思っている。勉強会を通して、他事業所への視察が出来るようにしたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩時間と場所の確保。又、日常的に職員との会話の中で、悩みやストレスが解消できるよう努めている。</p>		<p>個別面談等の機会を増やし、より一層の職員の現状把握に努める。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>メリハリある指導や、声かけを心がけている。特に誉めることには力を入れ、個人のやる気を引き出している。</p>		<p>他職員の良い部分や悪い部分を、素直に自分に反映できる心を持てるように指導していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まだまだ本人の要望に近付いていないことも少なくない。ひとつひとつ小さなことから始め、時間をかけて受け止めていくようにしている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まだまだ本人の要望に近付いていないことも少なくない。ひとつひとつ小さなことから始め、時間をかけて受け止めていくようにしている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>努めている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>アセスメントにおいて、利用者の性格や好みの把握に努めている。本人や家族との話し合いをしながら、本人の残存機能を確認しつつ、介護計画を立てて開始している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>出来る限り24時間密着している。昔の学ぶべきところは吸収し、時にはケンカしたり一緒に泣いたり、家族のように接していきたい。</p>	<p>利用者が心を開いていただけるように、職員側も様子を見ながら会話するよう心がけている。時には感情的になる場合もあるが、プラスになるような触れ合いを保つようにしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護計画を定期的に説明することにより、少しずつ家族の計画内容への理解が増し、意見が導き出せるようになってきた。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	認知症という病気を家族に理解していただくよう努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	必要に合わせ家族の協力も得ながら可能な範囲で支援している。		以前お付き合いがあった方への手紙や電話など、希望があれば出来る範囲で支援を行っている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるよう努めている	利用者同士の会話などには、近すぎず離れすぎないポジショニングの基に、トラブルに発展しない限りは立ち入らないようにしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居者の家族と、偶然外出先で出あった時など、丁寧な対応を心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人生まれ暮らした場所も好みも違うので、元気に、とてもいい生活をしていた頃に近づけるよう本人と話し合いながら空間作りを一緒にやっている。		できる範囲で希望に近づけていきたい。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、家族、前にいた施設、病院などから情報収集し、アセスメントを行っている。その情報をスタッフ間で共有し、業務に反映できるよう心がけている。		生活歴などのアセスメントにもっと力をいれる。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活表や個別カルテなど参考にし、一人一人の過ごし方や体調など、現状を把握している。一人一人の表情や行動を見守り、心身状態を少しでも理解するようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者(家族)担当者を含め、最低4人以上で担当者会議を定期的に行い、介護計画を作成している。		適時に介護計画を見直し、全職員のアイデアが反映されるよう作成していきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人に必要な課題を介護計画に出来るように努力している。		適時の見直しや、利用者・家族との意見交換の機会を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを活用し、職員間でのコミュニケーションを取りながら、介護計画を見直すよう努めている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望時に、食事を共に摂れるよう提供したり居室や宿泊室を使用し共に宿泊できるよう支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の消防署協働による総合防災訓練を実施している。また、新聞や市報、本人との会話から周辺資源、行事等の情報収集を行い、可能な範囲で対応している。		周辺資源を把握し、日常的に入居者、スタッフが訪れる機会をつくり、認知症やグループホームに対する理解と協力を得ることができるよう働きかけていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前後の継続的なケアの確保。入居後の地域での多様な資源を活用した暮らしと、退居時の支援等、あらゆる段階で他サービス事業所と相互協力を図っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現段階では対応事例はないが、必要に合わせ対応できる体制をとっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている。必要に合わせ、近くの総合医療機関も利用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に合わせた協力医療機関を確保できている。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を週に1日配置しており、日常の健康管理等についての相談をしている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者、病院の相談員を窓口として調整を図っている。		病院にこまめに訪問し、本人に一番接する機会の多い職員との情報交換を行いたい。
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期をホームで、と言われるご家族とは医師も含め、話し合いの場を設けている。状況確認やこれから先の予測も、チームでミーティングを行い対応できるようにしている。		終末期に向けての勉強会もその都度に応じて行っているが、スムーズに対応できる為に、日頃より心積もりをしていかなければいけない。(終末期の利用者がいない場合でも)
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をよ良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日常的にバイタル測定をしながら、その方の体調やこれから先に目を向け、重度化の予測や危険性など、定期的・適時の診察や、看護師との相談をこまめに行い、準備や心のケアなどに配慮している。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間での話し合いや情報交換を行っている。		住み替え先を訪問し、その環境やそこに関わる方々との連携を密に行いたい。 また、本人に住み替え先に何度も足を運んでもらい、急な環境の変化によるダメージを軽減したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーを損ねる対応、記録などはしていない。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>思い、希望が表現できるように、雰囲気作りを心がけている。回想法を使用したり、本や広告などを元にし、思いが通うように支援を心がけている。また、迷われる場合の判断について、分かりやすく言葉にし、選べるように努力している。</p>	<p>普段なかなか買い物にでられない方が多い為、出かける機会を増やす。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来るだけ、今日は何をしたいか？など働きかけ、その方のペースで過ごしていただけるよう努力している。</p>	<p>希望にそえるような勤務にしていきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>今まで通っていらした場所へ付き添い支援は行っている。</p>	<p>以前使用されてあった化粧品など、外出の際に取り込むようにしている。 衣類についても着用できるものは利用する。</p>
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食べたいものを食べる提供が不十分。好みに応じること、体調と比例し思い通りに出来ない状態の時間が少なくない。別のもので代用しているときも多い。</p>	<p>食欲をそそるような盛り付け、食べやすく刻むなどの支援や、出来ることはお手伝いを通して取り組んでいる。</p>
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>特別な日(誕生会や敬老会など)を利用し、楽しめるようにしている。 お酒や煙草など、医師へ確認しながら指示を頂いている。</p>	<p>いつでも好みの飲物、お菓子などは楽しめるように買い置き、家族より預かり物を利用している。その時に応じ、対応している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表など参考にし、時間を確認したり気分や行動を観察し、スムーズに排泄できる雰囲気を取り組んでいる。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう配慮している。職員間のコミュニケーションを取りながら、入居者様の都合にあわせた入浴と、基本入浴の時間を使い分けている。		希望にそえるような勤務にしていきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の一日の流れに沿い、気分や状態を問わず観察している。日中、休息できるスペース、共有部のソファや食堂の椅子なども活用し、休息スタイルを見守ったり声かけしたりしている。昼夜逆転気味の利用者など、出来る限り昼間の時間を有効利用し、体を使った頭を使ったり適度に運動を行い安眠できるよう心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の気晴らしの支援を活かせるように、楽しみごと(トランプ、カルタ、ボールなど)の遊びや外出、散歩、買い物など取り組んでいる。		時間が十分に取れるよう業務内容等を見直していきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力量に応じた金銭管理支援。 預かり金による出納管理支援等、ご家族にもそのその出納を定期的に報告。買い物の際は本人が金銭のやり取りが出来るよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望がある方は、その日に戸外へ出ている。希望があるけど表せない方へも声掛けを行い、一日一度は...を心がけている。		近所のスーパーなどへ一緒に買い物へ出かけている。買い物しない時でも散歩へ出かけて外の空気や、季節感などを感知取って頂いている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	行事委員、担当(月)による年間計画をベースに季節に合わせた企画等を行なっている。必要に合わせ家族の協力をいただき対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている。		電話等を入居者の方の目の着きやすい場所に設置、又、ポストなどの設置も考えていきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室で閉じこもっていただくのではなく、他利用者と共にダイニングなどで会話等していただき、全員との馴染みを心がけている。		ホームの行事等を家族に連絡し、参加や見学を促している。又、ホームの年間、もしくは月間行事などを訪問者の目に付きやすいところに貼り出し、常に情報を提示していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。		朝起きたら開け、寝る前は閉める。よ、普通の玄関に近づけるよう取り組んでいく。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各個人の行動パターンを把握し、職員間での声かけを行いながら見守りを行っている。所在や安全確認を行ないやすいように、居室ドアを少しあけておくこともある。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を把握しながら、安全性を確保している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者も含めた防災訓練を定期的実施。「明日への一報」励行。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医療連携体制の導入。グループ内の診療所(24時間体制)により緊急時対応は確立されているが、看護師、医療職に頼る面が多く緊急時の対応に不安を抱えているスタッフも少ない。		定期的に勉強会などを開催し、職員の技術修得に努めたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二度、総合防災訓練を実施している。避難経路の確認や、建物の周辺を見直し、安全な場所を理解している。		地域の人々に、認知症やグループホームに対する理解と協力を得ることができるよう働きかけていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日常的に近況報告はもとより、状態の変化や異変の発見に努め、チームでリスク対応に関する情報を家族と共有している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り等による情報共有。気付いたら細かく記録をとっている。予測されることは情報を共有し、かかりつけ医からの助言も頂いている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋などに必ず目を通し、追加薬が処方された時など記録をし、経過観察を実施。飲み込み確認や工夫をした内服介助も実施している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、一日のサイクルを観察。適度な運動、水分補給、おやつ時なども便通の良いものを一緒に作ったりしている。 腹圧の弱い方へのマッサージ、内服薬活用も実施。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	日常的に一日三回の口腔ケアの実施をしている。自分で出来る方、介助が必要な方に合わせて、気分の状態も気にながら、声かけ促しの体制を取っている。		自立されている方はなかなか確認が出来ない為、入浴時など職員が確認できるときにも足していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じ建物内に栄養課がある為、栄養バランスは提供していただいている。水分補給についても、極端に少なすぎないようにいつでも摂取できる状態を保っている。		嚥下状態、咀嚼等を観察し、毎日の摂取量を記録している。不足しがちな栄養は、その都度看護師やかかりつけ医に報告し指示をいただいている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	トイレの後、食事の前、活動の後、おやつの前などにアルコールによる消毒は必ず行っている。外からの来訪者の方にも、消毒をお願いしている。		風邪を引きやすい季節の変わり目など、出来る方にはお茶でのうがいをすすめている。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所回りの消毒は夜勤帯にて毎日行っている。安全な食材は同じ建物内の栄養課へ注文を依頼し、調理するようにしている。		食中毒予防のため、清潔に努め、熱湯消毒なども行っている。食材の傷みがある場合、栄養課との相談も行っている。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	郵便受けや表札等、地域特性を活かし、木製で手作りし温かみが増すよう努めている。時折、利用者と共に模様替えも行っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には利用者の作品などを飾り、季節感が分かるような飾り付けなどもしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの周りにソファを配置し、寛ぎながらテレビ視聴できるようにしている。また、テレビのリモコンも手の届くところに配置し、自由に使えるようにした。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されたあったもの、思い出深いものなど持参していただき、居室にて使用している。以前の暮らしに近づけられるような、部屋の飾りも本人様と一緒にしている。		本人と共に部屋の模様替えなど楽しみながらしているが、本人が居心地良いのか不明な点もある。利用者と同じ視点で考え、落ち着く部屋にしていきたい。
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏場は26度～27度。冬場は25度～27度くらいを目安に設定している。外気を時々入れ、空気の入替えなど、季節感、においも感じられるようにしている。		特に臭いが気になる居室については消臭剤を適用している。消臭と共に清潔を保てるよう一緒に掃除を行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すり、バリアフリーなづくりは勿論のこと、出来る限り車イスやシルバーカーなどの邪魔にならないように広く、スペースを確保している。不安にならないように目隠し用にポスター配置も行っている。		ご自分のお部屋が分かりづらい方の為に、入り口に名前札を取り付けたり、方向を示す表示を作成したり、あまり大きすぎないようにトイレの場所を記入したりなどの配慮は行っている。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	アセスメント表を使用し、一人ひとりのわかる力が全職員に把握されるよう努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	当フロアのベランダは、楽しんで活用できる造りではない為活用はしていない。下のフロアのベランダや、一階などの庭に花や野菜などを育てて楽しむこともある。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 大川

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が退院して戻って来られた時に、ホームで安心して生活できるよう、そして入院前の状態に少しでも近付けるよう、全職員が心をこめてケアを行っている。利用者とは職員ではなく、本当の家族のように密着したケアを提供している。時間にとられないケアを行っている(入浴、就寝、外出等)。